

絵本だいすき!

絵本で共に育ち、生きる (1)

攪上久子
(大学院生)



「みんなひとつ」

原画 小林 煌

製作 布の絵本の会「さくらんぼ」

http://www.geocities.jp/sakuranbo_wada/

バリアフリー絵本とは

「世界のバリアフリー絵本展」という展示会を通じ、私は、子どもの本がどんなまなざしを子どもたちに向けてきているのかを考えてきました。この展示会は、国際児童図書評議会 (IBBY) ^{注1} 障害児図書資料センターのコレクションを紹介するもので、内容は隔年で

更新します。毎回、世界二十数か国から五十冊ぐらいを展示します。IBBY各国支部より国内推薦で挙がってきた本の中から、センターのスタッフが Outstanding Book として選書します。

「バリアフリー絵本」という言葉は、こうした展示会を十五年ほど前に日本国内で立ち上げるとき、障害がある子どもたちの関係する絵本をどう総称しようか悩み、また、ちょうどその頃インターネットが一般にも普及し、これからは検索用語が必要と考え、この言葉を使うことにしました。私はバリアフリー絵本を説明するとき、「For」「About」「By」「With」という言葉を使っています。障害がある子どもたちのために (For) 配慮を加えて作られている本・障害がある子どもたちについて (About) 描かれている本・障害がある子どもたちによって (By) 作られている本・障害があってもなくても一緒に楽しめる本 (With)。

攪上久子 (かくあげひさこ)

「世界のバリアフリー絵本展」実行委員長。

お茶の水女子大学大学院 保育・児童学コースに在籍中。

最後のWithは、つい最近、静岡県立大学で展示会を開催していただいた折、このWithとAboutについて説明し、その他に展示会には必ず一般市販絵本からも適書を見いだし展示していることに話を進めたとき、開催者の永倉みゆき先生が「ではそれはWithですね」と示唆してくださいました。展示会はこれまで二百か所ぐらいで開催しましたが、このように開催者の手で進化していきます。

Forの本にはどんな配慮が加えられるのか

私は、展示会の中で大事なものは「With」の視点だと考えてきましたが、実際に来場者の目を引きつけるのは、Forのカテゴリーの本、つまり、特別な配慮が加えられている絵本です。世界から集まってくるForへの知恵と工夫は素晴らしく、人の限らない可能性や希望を感じます。下記にその数例ですが、挙げてみましょう。日本では出版されていないよう

なアプローチがほとんどですので、展示会以外で実物に触れる機会がほとんどないのが残念です。

- ・ 見えない子は、字や絵を触ったり聴いたりして読む。
- ・ 見えにくい子には字を大きくする。絵はお話に必要なものに絞る、色はコントラストをつける、縁取りを太く描く、などの工夫をする。
- ・ 字の理解が難しい子には、手話（先天的に聞こえない子の母語）を含むピクトグラム、注2PC Sなどの絵文字（視覚シンボル）や音声を加える。字と絵が一致するようにする。
- ・ 情報の整理の必要な子には、絵と字の一致、絵の絞り込み、あるいは注目すべき箇所のみカラーにするなどの工夫を絵に施す。テキストはサンプルに、大きめの活字で。
- ・ 手指の不自さなどでページがめくりにく

い子には、ボードブックのような厚手のページに、段差や、インデックスのような持ち手を付けたりする。

・ディスプレイ^{注4}のように字の読みにくい子のためには、行間や余白を大きめにとる。皆が読みやすいユニバーサルデザインフォントを使ったり、大きめの活字にする。行頭あるいは行末をわざと不ぞろいにする。本文用紙を真っ白な紙より、クリーム色や薄い水色の紙にする。本は読み切ることができるポリウムにする、等々。

このように実にさまざまな世界の知恵と工夫があります。障害児のための本といえれば視覚障害をイメージすることが多いでしょう。日本でもここ数年(てんじつきさわるえほん)が数冊刊行されています(『てんじつきさわるえほんぐりとぐら』福音館書店など)が、さわる絵本の作り方の世界のアプローチはこ

れだけにとどまりません。さらに、本のバリエーションは多種多様で、一冊の本ですべての問題を解決できるわけではありませんので、これらのアプローチから学べることを、配慮の必要な子に本を手渡したり、読んであげたりするときに生かしてあげましょう。そのようなことが大事だと私は考えています。そしてバリエーションの中でも一番読書から遠い位置に在るような、知的障害のある子どもたちの読書への工夫も、決して忘れてはいけないことです。また、これらFORへの工夫は、文化の多様性、言語の違う人たちの読書をも助けるものです。

日本のバリアフリー絵本から

これからの時代に大事なことは、FORの本がWIFIにもなっていくことでしょう。そんな視点から日本のバリアフリー絵本を二冊紹介します。

一冊は、日本から世界に向けて発信するバ

リアフリー絵本でいつも注目される、手作り布絵本からです。ボランティアの手による手作りとは言っても四十年の歴史ある文化で、質の高い作品も多く、それらを見いだして世界に発信してきました。もともとは重い障害のある子どもたちがベッドの中でも楽しめるように、あるいは手指操作や認知の発達促進を意識した作り方もされてきましたが、これらの布絵本は各開催会で、年齢も障害も超えて多くの人に楽しまれていきます。

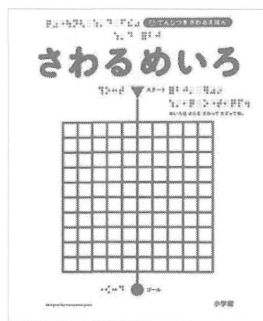
写真の『みんなでひとつ』は、パズル式の組み絵で絵が構成されています。



▲『みんなでひとつ』から

もう一冊は、二〇一三年に発行された『さわるめいろ』（デザイン 村山純子 小学館）。隆起印刷されている点図の線を触ってたどる

迷路遊びの本で、模様色の線の点図に重なり、障害のあるなしのみならず、難民など文化や言語の違いを持ったまま移動し続ける子どもたちにも、届けてあげられる本です。



▲『さわるめいろ1』
デザイン 村山純子
(小学館 2013年)

- 1 注 一九五三年にスイスのチューリッヒで設立された。IBBYはInternational Board on Books for Young Peopleの略。子どもと、子どもの本にかかわるすべての人をつなぐ世界的ネットワーク。
- 2 絵文字・絵単語・視覚記号の一つ。地と図に明度差のある二色を用いる。車椅子マーク、非常口マークがよく知られている。
- 3 Picture Communication Symbolsの略。図や記号によるコミュニケーションシステム。
- 4 読み書き障害、難読症等と訳されることが多い。